時事新報

東京　明治十七年七月十八日　金曜日　第七百四十號　日曜日休刊　定價金三錢

公報

○内務省達乙第三十四號　警視廳　府縣 東京府ヲ除ク

罰金ヲ輕禁錮ニ換ヘタル場合ニ於テ其日數十日以下ナル時ハ拘留ノ例ニ依リ警察署附屬ノ留置場ニ於テ執行スルヿヲ得ル儀ト心得可シ此旨相達候事

明治十七年七月十七日　内務卿 山縣有朋　司法卿 山田顯義

時事新報

米國商家ノ氣風

過般在米國ノ一友人ヨリ書ヲ寄セ來リ書中ノ一節或ハ日本商人社會ノ參考ニモト思ハルヽマヽ近隣ノ事ナガラ之ヲ左ニ記シテ一覽ニ供ス

(前略)當國人ガ商賣ニ熱心ニシテ巧ナリトノ評判ハ小生在鄕ノ時分ニモ聞キ及ビタル事ナルガ百聞ノ評判ハ一見ノ實ヲ以テ之ヲ疑ヒ實以テ感心ノ事共ニ御座候先ヅ一般ニ當商店頭ニ入テ物ヲ買ハントスルニ主人ハ無論番頭手代小僧丁稚ニ至ルマデモ十二分ノ愛敬ヲ呈シ客ノ貧富貴賤ニ論ナク假令ヒ聊カノ買物ニテモ彼方此方ト店中ヲ引廻シ棚ノ隅々マデモ開キ決メテアラユル其注文所望ノ品ヲ示シ扱直段定マリテ約條スレバ其品ヲ紙ニテ手奇麗ニ包ミ之ヲ君ノ宿所マデ送リ屆ケ申サン、手ヅカラ携ヘ歸ラル、トナ、去リトハカサバリテ途中ノ邪魔ナランナド、最モ丁寧懇極行屆タル挨拶ニテ我々日本人ガ在鄕中三都其外ノ地ニテ買物シタル時ノ氣轉ヘコテハ却テ氣ノ毒ニシテ赤面スル程ノ次第ナリ斯ク客人ヲ丁寧ニ取扱フハ或ハ陽ニ敬シテ陰ニ錢ヲ貪ルノ手段ニハ非ズヤト云フニ決シテ然ラズ我々ハ昨今渡米ノ日本人ニテ云ハヾ紐育都下ノ田舍漢ナレバ此田舍漢ニ賣ル直段モ純然タル米國人ニ賣ル直段モ曾テ異ナルヿナシ(米國諸商店皆然ルニ非ズ隨分掛直モ申シ喰ハセ物モアレバ是レハ客次第誰レニ向テモ同様ニ仕向ケテ錢ヲ貪ラントスルマデニシテ外國人ナルガ故ニ特ニ欺カントスルナドノ惡習ハ甚ダ稀ナリ)蓋シ商賣上ノ信ヲ重ンズルガ爲ナラン又小生ガ前年始メテ當國ヘ着ノ時桑港ニテ感心シタル一事ト申スハ同行ノ一友人某氏ガ新ニ帽子ヲ買ハントテ或ル店ニ入リタルニ主人ハ例ノ如ク客ヲ持テ成シ樣々ノ品ヲ出シテ之ヲ示ス傍ニ氏ノ舊帽子ヲ手ニ取リ之ヲ擧ルヿ甚ダシ此帽子ハ既ニ古ビテ貴客ノ用ニコソ適ハザレ性質ハ上品ニシテ出來モ亦佳ナリトテ頻リニ之ヲ稱揚スル其有樣ヲ一ト通リ考ヘレバ不審ナルガ如シ全体店ノ主人ハ今正ニ己レノ品ヲ賣付ケントスル最中ナレバ客ノ所持スル古物ヲバ散々ニ惡シク言ヒナシテ自家ノ品ヲ擧メ誇ル歟、左ナクバ入ラザルヿニ何等ノ評ヲモ下ダサヾルコソ當然ナレト思ヒノ外、全ク其反對ニ出ルトハ我々素人ノ考ニ解シ難キ所ナレドモ主人ノ意ハ唯客ノ氣ヲ傷ハズシテ何クレトナク自然ニ之ヲ悅バシムルノ方便ヲ盡スニ在ルノミ商賣上ノ[illegible]ノ點ト申ス可キモノナラン又過日小生ガ當市中歩行ノトキ雨ニ逢フテ偶々傘ヲ携ヘザリシニ往來ノ一人走リ來リテ己レノサシ居ル傘ヲ貸サント云フ道ハ不思議ニ深切ナル人モアルモノカナト先ヅ心ニ感ジテヨク其面ヲ見レバ曾テ小生ガ衣服ヲ注文シタル仕立屋ナリ小生ハ固ヨリ近處ノ買物ニテ且大雨ニモ非ザレバ懇ニ仕立屋ノ好意ヲ謝シテ傘ヲバ借用セザリシカド曾テ一度ヒ着物ヲ誂ヘタル緣ヲ以テ往來ニ己ガ身ヲ濡シテ人ニ傘ヲ貸サントスルガ如キハ商賣ニ人情ヲ利用スルモノトモ申ス可キカ其心ノ働ノ行屆キテ擧動ノ活潑ナルヿ唯感服ノ外アル可ラズ云々

右來書ノ趣ハ誠ニ近淺些末ノ事柄ニシテ一見之ヲ以テ論柄トスルニ足ラザルガ如クナレドモ天下ノ大事ヲ斷スルノ標準ハ往々些末ノ小事ニ在テ存スルモノ少ナカラザレバ此一片ノ文章モ亦決シテ之ヲ等閑ニ附ス可ラズ文明開化ノ要ハ人情ノ調和シテ擧動ノ活潑ナルニ在リ而シテ其調和活潑ノ氣風ハ人間交際ノ事實ニ現ハレテ處トシテ功ヲ奏セサルハナシ即チ前文ノ次第ハ米國ノ文明開化ガ其國人ノ商賣上ニ現ハレタルモノナラン例ヘバ我日本國ニ於テモ田舍ノ地方ハ不文ニシテ東京ハ文明ナリト云フ實際ニ就テ其有樣ヲ見ルニ地方ノ人ハ其眞實ノ德義ノ厚薄ニ拘ハラズ都テ言語武骨ニシテ容貌不人情ナルガ如シ往來ノ道ヲ尋テモ之ヲ敎ルヿ丁寧ナラズ、見知ラヌ人ニ逢フテモ言葉ヲ掛ルヿ遲クシテ動モスレバ面ヲ反クルヿ多シ、田舍ノ旅籠屋ニ止宿シ又店ニ入テ物ヲ買ハントスルニ其取扱常ニ粗客ニシテ客ノ意ヲ滿足セシムルニ足ラズ甚ダシキハ旅籠屋ニシテ旅客ヲ嫌ヒ、商賣店ニシテ物ヲ賣ルヲ好マザルカト疑フ可キ程ノ擧動ナキニ非ズ左レバ武骨不人情ハ田舍地方ノ品格ニシテ其程度ヲ察スルニ片田舍ノ町村ヨリ都邑ニ上リ、諸都邑ヨリ三都ニ上リ、次第々々ニ品格ヲ進メテ武骨不人情ハ變シテ溫和活潑ノ氣風ヲ現ハシ三都ノ中ニテモ東京ハ最上等ニ位スルガ故ニ人氣モ亦自カラ殺風景ナラズシテ都人士ノ交際、各商店ノ有樣ヨリ下流ノ人民ニ至ルマデモ其言語擧動ニ見ル可キモノ多シ所謂東京ノ文明開化ナルモノニシテ世人ノ普ク許シテ疑ハザル所ナリ然ルニ今眼ヲ轉シテ遠ク北米ノ事情ヲ傳聞スレバ其人情ノ溫和ニシテ擧動ノ活潑ナルヿ我文明開化ノ中心ナル東京ヲ凌駕シテ却テ之ヲ田舍視スルノ情ナキニ非ズ遺憾ナル次第ト申ス可シ是レモ在昔鎖國ノ日本ナレバ彼レハ彼レタリ我レハ我レタリ我武骨殺風景モ一ツ固有ノ妙處ナレトテ獨リ自カラ得々タル可シト雖ドモ今ヤ我レハ國ヲ開テ外國ノ人ヲ入レ其交際ハ月ニ日ニ廣クシテ繁多ナラントスルノ日ニ當リ武骨ノ審筆法ハ既ニ無用ニ屬シタリト云ハザルヲ得ズ、人ノ[illegible]自カラ武骨ノ中ニ在テ存スト云フト雖ドモ交際[illegible]ク德ヲ知ラレズシテ早ク既ニ愚鈍視セラル、[illegible]ノ多シ故ニ我日本國人モ果シテ我國ヲ開國ト決定シタル上ハ固有ノ道德心ヲ失ハザルハ勿論ノヿナレドモ內ノ德義ニ餘テ外ノ言語擧動ニ注意シ其溫和活潑ナルヿ彼ノ米國ノ商人ノ如ナランヿ我公私ノ爲ニ祈ル所ナリ

電報

○六月三十日龍動發　巡禮の一行が報道する所に依れば五月二十三日までは埃及カルトームは安全なりしと

○七月五日ボリナオー發　昨日印度マニラの北西に暴風吹起り本日は其勢稍減し先頃の暴風の如く西方に吹き廻はる可しと思はる○晴雨計は先頃暴風の時よりも餘程降り其速力も亦前より多きを加へたり

○六月廿七日海防發　佛軍は海軍歩兵三百人東京助兵三百人騎兵四十人土工技手四十名騾馬二百頭馬夫二百人を率ゐ銃砲を携帶して守衛の爲先郎松に赴きたるに西洋式の支那常備兵四千人と險路を要して郎松より二日間程の處にて不意に佛軍を襲擊し連戰二日間に渉りしが佛軍は非常の勇氣にて其陣を保ちたり○余(將軍ミロー)は將軍チグリー氏をして二砲隊二聯隊を率ゐて郎松に赴援せしめたり○連戰二日間お佛國の士官二人兵士十五人死亡し同士官四人兵卒七十五人負傷したり○目下余は外交上れ行事を妨けざる爲め地歩をバクルに占め居れ共若し事必要なりと認むる時は成る可く迅疾に支那の反覆に對して復讐せんと用意せり(以上郎松事件の電報は佛國將軍ミロー氏より交趾の佛國太守に送りたるものなり)

雜報

○明宮　嘉仁親王には一昨十六日有樂町なる御養育殿に於て午前十時頃より仝宮祗候正親町、園池等の諸氏を召され式部伶人の奏樂を聞せ給ひ了りて一同へ酒肴を賜りたりと

○茶會　小松宮、伊藤宮內卿、杉岡二等出仕其他貴顯の方々數名は一昨日麴町公園內星ヶ岡茶寮へ會せられ兼て出京中なる西京の茶湯宗匠閑喜庵が西歸するに付右送別の爲め抹茶會を開かれたりと

○大山陸軍卿　大山陸軍卿の一行は英國龍動府の巡覽を了り本月十三日獨逸國伯林府に着したる旨去る十四日同府より電報ありたりと

○松方大藏卿　同卿には一昨十六日大坂より京都府に赴きたり

○司法省七局　過日の紙上にも揭げし如く司法省に於ては一昨十六日從前の各局を廢し更に書記、庶務、民法、刑法、記錄、會計、檢務の七局を置き同日權大書記官人見恒民氏外三十三名は同省に於て左れ通命せられたり

書記局長ヲ命シ候事	權大書記官	人見恒民
書記局詰學務課長ヲ命シ候事	權少書記官	加太邦憲
書記局詰ヲ命シ候事	權大書記官	磯部四郎
仝	權少書記官	[illegible]
仝	判事	兒玉淳一郎
仝	仝	一瀨勇三郎
仝	仝	津村[illegible]
仝	仝	柳田直平
仝	御用掛	鄭永寧
仝	仝	坂田[illegible]
庶務局長ヲ命シ候事	權大書記官	犬塚[illegible]